

学校教育目標		校訓「みずから学び、みずから鍛え、みんなと生きる」を体現する生徒の育成				
重点努力事項		(1)20年先を見据えた教育の推進(長期的学力向上) (2)3年間で力をつける岩美中教育の実践(短期的学力向上) (3)学校不応への対応力アップ				
分掌重点目標		自分たちで課題を発見し、解決していこうとする自治的集団を育てる。 他者を思いやる力・互いを尊重しながら上手に関わっていく力を育てる。 困難に立ち向かい、打ち克つ心を育てる。				
柱となる活動	活動へ向けての努力事項 Do	到達目標	評価基準 Check	成果と課題 Do & Check	来年度への提言 Action	
みずから学ぶ活動	◎生徒会活動・正副室長会・委員会活動・応援団・縦割り活動を利用したリーダー育成 ・より良い学校環境にするための課題を見つける力を育てる。 ・リーダーを支えるフォロワーの育成。 ・他者と協調し、思いやる気持ちを育てる。 ・JRC活動でのボランティア精神の育成。 ・校内、校外ボランティア活動を活用し、他者や社会の役に立つ喜びを感じさせる。 ○生徒会・委員会(応援団)活動推進 ○リーダー正副室長育成係 ○学級活動活性化係 ○JRC活動推進係 ・代議員会を行い、生徒間でのより密な情報交換の機会を持つことで、目的、目標意識を学校全体で明確に持てるようにする。 ・生徒の自主性をサポートする動きを教員が意識的に行う。 ・様々な活動ごとに、実行委員会等を使って個々の生徒にリーダーを経験する機会を増やす。→ フォロワーの動きの活性化	・学校・学級が活性化すること。 ・目標に対する課題設定を行うことができる。 ・リーダーを支えるフォロワーがクラスに半分以上いる。 ・各場面において、問題を自分のこととしてとらえる姿勢を持つことができる。 ・ボランティア活動に自主的に参加できる。	(生)私は、生徒会・委員会活動・縦割り活動によって学校が活性化したと感じている。(80%) (教)生徒会活動、専門委員会活動は充実している。(80%) (生)私は、委員会や係の仕事などがんばる友達の手伝いなどをして支えている。(80%) (教)学級集団活動(学活、学級学年学校行事)で生徒は生き生きと活動している。(80%) (生)私は、地域行事や校内ボランティアに参加している。(70%) (教)JRC活動は充実している。(75%)	(生)生徒会・委員会活動(83%) (生)頑張っている友達を～(90%) (教)リーダー・フォロワー育成(69%) (生)地域行事、校内ボラ(71%) (教)ボランティア精神の育成(61%)		
	◎部活動を通じた健全な心身の育成 ・理想的な先輩・後輩関係をつくりあげ、健全な心身を育てる。 ・あいさつの徹底。 ・ルール、マナーを守って行動する力を育てる。 ・目標に向けあきらめず努力する気持ちを育てる。 ○部活動・部長会・中体連調整係 ・部長会を活用して部長を通して生徒自らルール、マナーを守るような声掛けをしていくことで、個々の意識を高める。 ・教員が足並みを揃え、部活動でのあいさつを大切にすることや時間を守って活動する意識を育てる。	・先輩・後輩関係がしっかりしている。 ・部活動開始時間を終学活10分以内に行うことができる。 ・活動の場において、異学年との交流を積極的に進めることができる。	(生)私は、勉強や部活のしんどい場面でも、友達と協力しながら諦めずに頑張っている。(80%) (教)部活動を通して、生徒の心技体を鍛えようと努めた。(85%)	(生)部活で苦しい時も～(91%) (教)部活動の活性化(87%)		
みんなと生きる活動	◎仲間作り活動、運動会種目、学級活動(クラスミーティング等)を利用した協調性や問題解決能力の育成 ・目標に向けあきらめず努力する気持ちを育てる。 ・失敗を恐れない姿勢を育てる。	・学校・学級が活性化すること。	(生)私は、生徒会・委員会活動・縦割り活動によって学校が活性化したと感じている。(80%)	(生)縦割り活動による学年をこえたつながり(79%) (教)縦割り・仲間づくり活動等を活かしたつながりの育成(45%)		
	◎学校生活の様々な場面において縦割り活動を利用したつながりの育成 ・行事以外の日常生活の中で意識的に協働出来る場面の設定。 ・リーダー以外にも、個による関わりを仕掛け自ら関わることができるようになる。 ・異学年との交流の中で、活躍の場をつくり、自己肯定感を高める。 ◎日々のソーシャルスキルトレーニング ・自然な顔つきができる ・折り合いをつける話し合いができる。 ◎Q-Uによる検証と実践 ・結果をしっかりと検証し、確実に学年・学級経営につなげていく。 ・Q-Uの検証結果をもとに、他学級の取り組みなどを参考に学年の連携につなげる。 ○縦割り活動推進係 ○学級活動活性化係 ○Q-Uによる検証係 ・縦割り結団式を1時間確保してスタートさせ、最初の関わりを丁寧なものとする。 ・JRCの町内清掃活動を縦割り活動から各学年ごとの活動に変え、無理のない年度当初のスタートとする。 ・日常的な縦割り活動の機会を充実させる。(ふれあいタイム、給食、掃除等) ・1回目のQ-Uから教員間で情報共有資料を作成、活用する。	・活動の場において、異学年との交流を積極的に進めることができる。 ・その場に適したあいさつや反応をすることができる。 ・全教職員がQ-U結果を共通認識できる。	(教)縦割り活動は仲間づくりに有効である。(80%) (生)私は、地域の人に出会ったらあいさつをしている。(80%) (教)Q-Uの研究方法は適切であった。(75%) (教)Q-Uを活用した学級経営に努めている。(75%)	(教)Q-Uによる検証、SSTの活用(69%)		